

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立鹿折中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒988-0812
宮城県気仙沼市大峠山1-263

E-mail : sisiori-jh@biue.ne.jp
 Website : _____

児童生徒数：男子 109名 女子 74名 合計 183名
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳


2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- その他 (地域復興)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

学校名	気仙沼市立鹿折中学校	主なESD領域	防災, 地域復興, 環境
テーマ	気仙沼の未来を考える		
<p>1 本校のESDでめざすもの</p> <p>(1) ESDのねらい 持続可能な社会づくりの担い手の育成として、生徒の「未来を見通す力」を育む教育を行う。</p> <p>(2) ESDで育てたい力(資質・能力及び態度) 「自らの身を守り, 乗り切る力」「知識を備え, 行動する力」「地域の安全に貢献する力」「安全な社会に立て直す力」「安心安全な社会づくりに貢献する力」の育成</p> <p>2 ESDのプログラム</p> <p>(1) 取組の概要 気仙沼市北東部に位置し, 山と海に囲まれた自然豊かな環境にあったが, 大震災により学区の大半が壊滅的な被害を受ける。総合的な学習の時間(さくら学習)では, 主に学年単位での学習に切り替わった。</p> <p>(2) ESDプログラム(実施)</p>			
全学年	<p>伝え合う活動(話し合いの仕方のルール作り) (2時間)</p> <p>防災学習「登下校時の安全」防災マップづくり, 非常時の対応(7時間)</p>		
1学年	<p>「ふるさとや環境について考える」(35時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する調査や体験活動, 表現活動を通して主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付ける。 ・地域の環境や今後の復興計画などについての探求の過程を通して, 地域の人々とふれあい, より深く関わりをもち, 郷土を愛する気持ちを育てる。 		
2学年	<p>「地域の産業や暮らしを考える」(35時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業に関する調査や体験活動, 表現活動を通して, 主体的に学ぼうとする態度や学び方を身に付ける。 ・地域での職場体験をすることによって, 産業と向き合いながらそれらを支える人びとの生活や生き方にふれ, 人と関わり, 人から学ぶ力を育てる。 		
3学年	<p>「社会のためにできることを考える」(50時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の観点から課題を選び, 調査活動や体験活動, 表現活動を通して, 主体的に行動する実践的な態度を身に付ける。 ・防災について学習する過程を通して, 地域の一員としての自覚をもって, 今後の気仙沼の復興など社会とより意欲的に関わりをもとうという気持ちを育てる。 		
<p>(3) 活動の評価の観点と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を自分の身近なこととしてとらえることができたか。自分がどうすればいいのかという課題意識をもったか。意欲的に体験活動を行うこと 			

ができたか。 【活動中のポートフォリオ的な評価】

- ・10月の文化祭でのポスター発表、ステージ発表を全員が行うことを通して、自分が学んだことを発信したり、それに対しての反応をもとに学習を深めたりすることができたか。 【文化祭での表現活動での評価】

3 本校のESDの概要

(1) 今年度の取り組みの変更や改善点

前年度までは、縦割りコース別の学習を基本として、環境をテーマに活動を展開していたが、今年度は、すべての生徒に共通のテーマで取り組ませ、話し合い活動を活発化しながら学習を進めることをねらい、学年単位での学習とした。

(2) 実施の成果

①プログラムや活動の改善の視点から

- ・学年共通のテーマで活動することにより、生徒が共通のテーマで活動し、お互いに学習を深め合うことができた。
- ・学年単位でプログラムを検討できたので、教師間の連携が図りやすくなった。

②児童生徒の変容（資質・能力、態度）の視点から

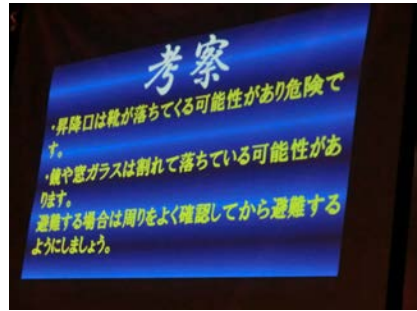
- ・全学年共通テーマである通学路の防災マップ作りが縦割り活動だったため、3年生のリーダーシップが発揮された。
- ・職場見学（1学年）や職場体験（2学年）を通して、地域に働く大人たちの思いや願いにじかに触れることができ、地域復興への動きを肌で感じる事ができた。

③教師や保護者、地域住民の意識の変容の視点から

- ・校内防災マップを作り（3学年）や学習の成果を文化祭で発表したことにより、日頃のからの防災対策の重要性を、保護者や地域へ発信することができた。

(3) 次年度に向けた課題と展望

今年度から学年単位での活動を中心に据えた取組を行った。来年度もこれを継続発展させ、地域を見つめ、気仙沼の未来を考えることをテーマに取り組んでく予定である。また、学校外の人材を積極的に活用し、地域との連携を深めていきたい。さらに、学年間のテーマのつながりを検討し、段階的に学習を積み上げていけるようにしたいと考えている。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（